



福井 邦顕

一般社団法人東北経済連合会 副会長

東北の底力

2013年の11月3日、忘れもしない、楽天イーグルスが日本一に輝いた。震災から3年越しのようやく成し遂げた快挙である。

2011年4月29日、イーグルスは震災後初めて仙台クリネックス・スタジアムで試合を行った。試合前に嶋選手が語った言葉に、観客のみならず被災地の人々、そして全国の多くの人たちが感動したと想像する。私は迂闊にも、遅れて2013年10月2日にNHKが放映した番組で初めて聞いて感動し涙がこぼれてしまった。
～嶋選手のスピーチ～

「遅れて申し訳ない」という気持ちで避難所を訪問したところ、皆さんから「お帰りなさい 私たちも負けないから頑張ってるね」と声を掛けて頂き、涙を流しました。

そのときに僕たちは何のために戦うのかははっきりしました。

『東北の皆さん 絶対に乗り越えましょう このときを』乗り越えた向こう側には強くなった自分と明るい未来が待っているはずです。

『絶対に見せましょう 東北の底力を』

(NHK スペシャル：東北楽天・被災地に誓った初優勝)

ここで使われた『絶対に見せましょう 東北の底力を』は以後私の心に強く焼き付いて離れなかった。そして、彼が言った「東北の底力」は、果たして自分の会社(福島県郡山市)ではどうであったかを思い返してみた。

当時、郡山市は震度6弱の大きな揺れに見舞われた。それにより、本社社屋と第三工場が損壊し使用不能となった。残った工場や倉庫なども一部損壊し、社員総出で後始末と補修に取り掛かり、何とか生産の早期再開と製品出荷に漕ぎ着けようと、毎日、黙々と取り組んでいった。業界では、当社は再開困難により倒産するのではとの噂が立ったにも拘わらず、わずか60日間で復旧を完了した。

そうだ！あの時我が社の社員も「東北の底力」を発揮し、未曾有の危機を乗り越えたのだと改めて実感した。被災後の報道から、被災三県のそれぞれの企業さんも、同じように「東北の底力」を存分に発揮されたものと推察される。

広辞苑によると、底力とは「底にひそんでいて、いざという時に発揮する強い力・能力」とある。考えてみると「底力」というのは、戦後復興期に「日本人の底力」が発揮されたように、歴史上、至る所で人間の生き様として、個人であれ集団であれ、危機存亡の時(いざという時)、普段では考えられない底力を発揮してきたということが解る。

今は「東北の底力」が発揮されている時であることは間違いない。嶋選手も直感的に被災地には今こそ「底力」が必要だと感じ、あのような『絶対に見せましょう 東北の底力を』という言葉が出てきたものと思われる。東北の復興は依然として道のりは遠い。しかし、「東北の底力」は粘りが身上の東北人にはまだまだ発揮され続けて行くものと信じる。2020年に「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されるまでには、「東北の底力」の発揮により被災地の完全復興が実現されていることを期待したい。

(福島県経営者協会連合会 会長・ふくい くにあき)